

平成17年度「青森県豊かな海づくり大会」開催

平成17年度「青森県豊かな海づくり大会」が去る9月28日（水）平内町の「ほたて広場」において、県内漁協や水産団体関係者約200名が参加し盛大に開催された。

大会は先ず、隣接する土屋漁港において、むつ湾内の密漁監視船及び漁船10隻による海上パレードで幕を開け、続いて平内町救難所による漁船火災を想定した海難救助訓練が関係者の見守る中、実地さながらに執り行われた。続いて、平内町漁協土屋支所が「ライフジャケット着用推進モデル漁協」として海上保安庁の指定を受けたことにより、その指定証が、黒木喜年青森海上保安部長より交付された。指定証を受け取った太田徳一常任理事は、今後より一層救命胴衣の着用推進に努めることを誓った。

その後、会場を「ほたて広場」に移し、「青森県豊かな海づくり大会」の式典が行われた。

式典では、植村正治大会実行委員会会長が主催者の挨拶をし、続いて来賓として三村申吾県知事（長谷川義彦出納長代読）、山内和夫県議会議長が祝辞を述べた後、本県水産業で他の模範となる優れた実績を上げた、易国間漁協の金田一源五郎組合長、青森市漁業研究リーダー会（中村久雄会長）に対して、長谷川出納長より「青森県水産大賞」が贈られた。

表彰に続き、「豊かな海は森の育成から」というスローガンの下、植村大会実行委員会会長から逢坂雄一平内町長へ記念植樹の目録が贈呈された。続いて、平内町漁業連合研究会の後藤石雄副会長が「漁業経営の持続的安定について」と題して、また、青森県青年漁業士の長内詞子さんが「魚食普及活動と私たちの夢」と題して浜の声を発表した。

最後に、三津谷廣明大会実行委員会監事が大会決議を朗読し、満場一致で決議が行われた。

最後に、平内町小湊中央保育園児と大会関係者によるヒラメ・マコガレイ・メバルの稚魚放流が行われ、大会は盛会にうちに終了した。



挨拶を述べる植村会長



祝辞を述べる長谷川出納長



祝辞を述べる山内県議会議長



浜の声を発表する後藤副会長



浜の声を発表する長内青年漁業士



海上パレード



海難救助訓練



指定書の交付

あおもり漁連

大会決議

昨今、燃油価格が高騰しており、漁船漁業から産地魚市場を含めた水産物流通全般にわたって重大な影響を及ぼしている。また、大型クラゲが大量に出現しており、深刻な漁業被害が生じることが懸念されている。燃油価格の急激な上昇や大型クラゲの大量出現は漁業活動の支障を招き、魚市場への水揚げ減少や加工原魚の不足などを生じさせる恐れがあることから、本県のみならず、国民の食料である水産物の安定供給を図る上で水産資源の水統的な利用が不可欠であり、より一層の効率的な漁業経営を行う必要にせまられている。

また、地域漁業・漁村を再生するため、漁協合併を促進する必要がある。さらには、県民の暮らしを支える豊かな自然である山・川・海をつなぐ水循環システムを再生・保全し、消費者が求める安全・安心で良質な水産物の生産・供給を推進することも重要な課題である。

よって、平成17年度青森県豊かな海づくり大会の開催にあたり、私たちは、青森県の豊かな自然と水産業を後世に継承するため、下記の通り決議する。

記

1. 燃油価格の高騰に備え、より効率的な漁業経営を行いながら、資源管理型漁業のさらなる推進を図る。
2. 大型クラゲの出現情報等を迅速に収集し、関係者との連携を密にしながら、クラゲによる漁業被害の軽減を図る。
3. 経営基盤のしっかりとした、真に自立できる漁協を構築し、地域漁業・漁村を再建するため、漁協の合併を促進する。
4. 山・川・海をつなぐ水循環システムの再生・保全を図り、消費者の求める安全・安心で良質な本県水産物の安定的な生産・供給を推進する。

平成17年9月28日

平成17年度青森県豊かな海づくり大会



「青森県水産大賞」記念撮影



ヒラメ・メバル・マコガレイ稚魚の放流